

インド大特集 スタジオ・ムンバイから、ゴア海岸散歩まで!

ELLE DECOR

ファッション
×
インテリア
最前線

エル・デコ
4月号 APRIL 2013

いま欲しい刺激がここにある

インドに誘われて!

LOVE INDIA

ベッドルームは、
もっと素敵になる!

別冊付録
「Life Design Lab」



カラートーンの展開はホワイト、ライトセラドン、ダステライムストーン、パールモス、ペリーグレイ、ニアリーブラックの6色。左から「ミンガス P2」ペリーグレイ(φ34cm)7万5,600円 「ミンガス P1」ニアリーブラック、パールモス(各φ22cm)各4万5,150円/以上アクタス

Cecilie Manz

セシリエ・マンツ

ディテールで語る、セシリエ・マンツの新作照明。

デンマークのデザインシーンをリードし続けるセシリエ・マンツ。ライトイヤーズから発表した新作照明「ミンガス」とともに、彼女が東京にやってきた。点と点をつなぐようにして生まれた形のランプシェードは、3つのファセットが独特なカラーニュアンスを生んでいる。「プロダクトの存在意義を考え、必要ないものはすべて削ぎ落としながら、キャラクターとなるものを少しだけ残す」のが彼女のデザイン手法。シェードとケーブルのジョイント部分からわずかに光が透過し、テキスタイルコードがわずかに光るのもディテールにこだわる彼女らしい。

シェードはホワイト～ニアリーブラックまで、6色展開。この色のチョイスにはフォルム同様にこだわり、時間をかけた。そしてトーンは、日常目にするものから気

に入ったアイテムを集めたものをカテゴリー化して導き出した。例えばアルミ製の定規やテープカッターがイメージソースにあるペリーグレイ、韓国の陶器や日本の茶筌から生まれたライトセラドン。

「日本ではダイニングの照明が高い位置にあるけれど、こういうペンダントライトはテーブルから60センチ上ぐらいがおすすめ。電球は見えずランプの下でちょうど相手の目が見えて、親密な感じで食事ができるはず」と教えてくれた。

Profile

1972年デンマーク生まれ。アートに造詣の深い両親のもと、クリエイティブな環境で育つ。デンマークとヘルシンキでデザインを学び、1998年コペンハーゲンに自身のスタジオ「マンツラボ」を設立。
<http://www.ceciliemanz.com/>

Reinhard Zinkann

ラインハルト・ツィンカン

20年後を見据えた、ミーレのデザイン戦略は？

ドイツの高級家電ブランド、ミーレ。同社の手がける製品の大半が、キッチンキャビネットや壁面収納、カウンター下に組み込む「ビルトイン」式だ。食器洗い機、オープン、ドラム式洗濯機や乾燥機はどれもステンレスやモントーンを基調にしたシャープなデザイン。

ビルトイン家電は工事で設置するため、製品は約20年という長寿命な品質を求められる。空間やインテリアも時代とともに変化するなか、周囲が変わって

もミーレ製品は不変のデザインを求められる。そんなデザイン性と進化する技術を結びつけているのが、同社社長のラインハルト・ツィンカンだ。

「ミーレのデザインテーマは“タイムレス”というひとつにつきる。一方で世界中の生活習慣やライフスタイルを調べ、それに適った機能を開発している」。彼は定期的にデザインセンターに技術者とデザイナーを集めて、顔を合わせてのミーティングを欠かさない。

昨秋は東京・目黒に製品約100台が並ぶ旗艦ショールームがオープンした。美しい見た目と機能の融合——ミーレの考えるデザインを、最新モデルとともに暮らすように体験できる場所なので、ぜひ足を運んでほしい！

オープンやスチームオープン(蒸気調理器)、コーヒーマシンなど、違った機能の家電を壁面にビルトインしても、マシンのフェイスの水平垂直が美しく整う。手前はキッチンカウンターに埋め込む、オープングリルやIHタックキングヒーターだ。



Profile

ドイツで114年の歴史を誇るミーレグループのオーナー兼社長。1959年生まれ。創業者の孫として生まれ、共同創業のマルクス・ミーレと今なお、共同経営を行い、デザインやマーケティングの指揮を執る。<http://www.miele.co.jp/>